**パラグアイ内政・外交（２０１４年９月）**

**概要**

**（１）内政**

●４日，与党コロラド党は代表者会議を開催し，本年１１月に臨時党大会を開催し，２０１５年の市長選挙に向けて，他の党との選挙協力の可能性につき協議することを決定した。

●１２日，与党コロラド党は，結党１２７年の記念式典を開催した。同式典において，リリアン・サマニエゴ党首が演説を行い，党内が一致してカルテス政権を支えることを求めた。

●１７日，ホルへ・オビエド・マットUNACE党党首は，カルテス大統領が再選を希望する場合，右を支持する旨述べた。これに対し，カルテス大統領は，再選は自身の政治アジェンダに含まれていない旨述べ，再選の可能性を否定した。

●１８日，政府は公的情報アクセス法（Ley a Acceso a la Informacion Publica）を公布した。同日，カルテス大統領は同法の交付式に出席し，同法の交付を高く評価する旨の演説を行った。

**（２）外交**

●２日，パラグアイ外務省において，平成２６年度日・パラグアイ経済協力政策協議が実施された。

●１５日， ロイサガ外相を表敬したDorit Shavit駐亜イスラエル大使（パラグアイを兼轄）は，来年１月を目処に当地イスラエル大使館を再開させる旨述べた。

●１８日，イゴール・パングラシオ駐米国大使は，ホワイトハウスにおいて，オバマ大統領に対し，信任状を奉呈した。

●２２日～２６日，ロイサガ外相は第６９回国連総会に出席するためニューヨークを訪問した。

**１　内政**

**（１）公的情報アクセス法の公布**

●１８日，政府は公的情報アクセス法（Ley a Acceso a la Informacion Publica）を公布した。同法は客年１０月上院で法案審議が開始され，同年１２月に上院において修正の上，可決された後，本年５月に下院が再修正を加えて再度上院に審議を付託する等，約１１ヶ月に及ぶ議会での攻防の末に，８月２１日可決・成立し，今回政府が公布するに至ったものである。

＜同法の概要＞

●憲法第２８条で保障された公的情報への国民のアクセスを確保するために，その方法，期間，例外，罰則を定めたもの。

●同法による｢公的機関｣とは，行政府，司法府，立法府，国軍，国家警察，国立大学，県庁，市役所等をいう。

●各機関は，情報公開室を創設し，可能な限り簡易な方法で開示請求を受け付けなければならない。また，開示の実施は，請求から１５日以内に行われなければならない。

●国家機密として指定された情報は開示されない。

●開示請求の却下を受けた者は，裁判所に対して不服申し立てを行う事ができる。

＜同法の交付式＞

●カルテス大統領は，同法の交付式に，アファラ副大統領，上下両院議長，最高裁長官らとともに出席し，「パラグアイはこの新たな法律を手にし，歴史的な瞬間を迎えている。腐敗を撲滅するために，まずは公的機関から悪習を絶ち切らねばならない｣旨述べ，同法の公布を高く評価した。

**（２）カルテス大統領再選に向けた動き**

●１７日，ホルへ・オビエド・マットUNACE党党首は，同党の結党２５周年式典において，今後もコロラド党と協働する旨述べるとともに，カルテス大統領が再選を希望する場合，右を支持する旨述べた。

●これに対し，カルテス大統領は，再選は自身の政治アジェンダに含まれていない旨述べ，再選の可能性を否定した。

**（３）与党コロラド党の動き**

＜臨時党大会開催の決定＞

●４日，与党コロラド党は代表者会議を開催し，本年１１月に臨時党大会を開催し，２０１５年の全国市長選挙に向けて，他の党との選挙協力の可能性につき協議することを決定した。これに対し，フリオ・ベラスケス上院議員は，リンピオ市やイタウグア市では苦戦が予想されることから，それらの市においての他党との選挙協力は有益であろう旨述べた。

＜結党記念式典の開催＞

●１２日，与党コロラド党は，結党から１２７年を迎えたことを祝し，記念式典を開催した。同式典において，リリアン・サマニエゴ党首が演説を行い，昨今の党内で聞かれるカルテス大統領に対する批判に関し，カルテス政権を支えることがコロラド党員の義務である旨述べるとともに，カルテス政権の成功こそがコロラド党の成功を意味する旨述べ，党内の一致団結を求めた。

**（４）EPP（パラグアイ人民軍）による誘拐事件**

●１９日早朝，４月上旬にコンセプシオン県で発生したEPPによるアルラン・フィック少年（１６歳）の誘拐事件に関し，EPP対策を行う合同捜査部隊が，同県オルケタ市近郊において，捜査活動を実施していたところ，EPP関連メンバーを発見し，銃撃戦が発生した。銃撃戦の結果，同メンバーのうち３人が死亡した。情報筋によると，死亡したのは，EPPから分派したと見られる者らにより構成されたACA（アグルパシオン・カンペシナ・アルマダ）と称される組織のメンバーであった。同事件に関し，デ・バルガス内務相は，捜査部隊側からは負傷者が出ておらず，本日実施した捜査活動は成功裏に終わった旨述べた。

**（５）２０１５年国家予算の見通し**

●２８日付当地主要紙によれば，大蔵省より近日中に国会へ提出予定の２０１５年国家予算案は，２０１４年現行予算と比較して５％増加し，１４，３３１百万ドル（１ドル＝４，３４０グアラニーで換算）となる見込みである。右により２０１５年の財政赤字は財政責任法で定められる対GDP比１．５％と同程度となる見込み。同省は右予算の増加理由を，最低賃金改定に伴った公立学校の教師４４，０００人及び公務員の賃金引き上げと説明している。

**２　外交**

**（１）日・パラグアイ経済協力政策協議**

●２日，パラグアイ外務省において，平成２６年度日・パラグアイ経済協力政策協議が実施され，上田大使，谷口JICAパラグアイ事務所長，ゴンサレス外務副大臣，モリーナス企画庁長官，ロメロ電力公社（ANDE）総裁，ナイティング・イタプア県知事等が出席した。パラグアイ側より，社会・経済開発方針の説明がなされた後に，日本側より，日本の援助方針を説明し，双方の間で援助重点分野等について協議が行われた。

**（２）イスラエル大使館の再開**

●１５日，ロイサガ外相は，外務省において，Dorit Shavit駐亜イスラエル大使（パラグアイを兼轄）の表敬を受け，二国間の関心事項について協議を行った。同表敬後，Shavit大使は記者団に対し，イスラエルとパラグアイの関係は良好であり，来年１月を目処に当地イスラエル大使館を再開させる旨述べた。また，７月末に行われた第４６回メルコスール首脳会合において，ガザ自治区への攻撃に対するイスラエル非難決議にパラグアイが反対したことにつき謝意を述べた。

**（３）駐米国大使の信任状奉呈**

●１８日，イゴール・パングラシオ駐米国大使は，ホワイトハウスにおいて，オバマ大統領に対し，信任状を奉呈した。パングラシオ大使は，信任状奉呈後の会談において，オバマ大統領に対し，両国間には共通の価値観や考えを基礎とした長い伝統が存在すると述べた。これに対しオバマ大統領は，民主主義強化，雇用創出，国際組織犯罪対策，環境保全の分野でパラグアイと協働し，強固で持続的な関係を築いていきたい旨述べた。

**（４）ロイサガ外相の第６９回国連総会出席**

●２２日～２６日，ロイサガ外相は第６９回国連総会に出席するためニューヨークを訪問した。

＜内陸開発途上国閣僚会議への出席＞

●２５日，ロイサガ外相は，内陸開発途上国閣僚会議に参加し，ステートメントを行った。同ステートメントの中で，ロイサガ外相は，内陸開発途上国（LLDC）の開発に関するアルマティ行動計画の１０年レビュー会合にむけた取組に言及した上で，現在のレビュー案は貿易，運輸,インフラなど経済発展の側面に重きを置いたものであるところ，パラグアイは真の意味で生産変革をもたらす政策の導入を検討している旨述べた。

●また，同外相は,貿易円滑化協定の中核をなすのは「通過の自由」の強化であり，各国の内陸開発途上国としての条件を考慮に入れ，同協定の速やかな採択を求める旨述べた。更に，他の内陸開発途上国に対し，国際場裡におけるグループとしての連帯及び協力を求めた。

＜その他の国際会議への出席＞

●ロイサガ外相は，２３日国連気候サミット，２４日国連総会一般討論，２５日サイドイベント「子供に対する暴力及び搾取のない世界」，ＣＥＬＡＣカルテット＋ロシア外相会合，２６日国連PKOに関するハイレベル会合に参加した。

**（５）ロイサガ外相のニューヨークにおける二国間会談**

●２２日，ロイサガ外相はロドリゲス・ガイアナ外相との会談を行った。両外相は，良好な二国間関係を強調するとともに，更なる関係強化に向けた政治的意志につき一致した。また，その後行われたアティーヤ・カタール外相との会談は両国間関係を強化させようとする和やかな雰囲気の中で行われ，貿易・投資分野における関係促進につき意見交換が行われた。

●２３日，ロイサガ外相は，ポポスキー・マケドニア外相及びミン・ベトナム外務大臣とそれぞれ会談を行い，二国間の共通関心事項につき，意見交換を行った。

●２４日，ロイサガ外相はシャンムガム・シンガポール外相との会談を行い，二国間のアジェンダにつき，広く意見交換を行った。

●２５日，ロイサガ外相は尹・韓国外相との会談を行い，二国関係及び２０１５年上半期に予定されているカルテス大統領の韓国訪問につき，意見交換を行った。また，ラミレス・ベネズエラ外相との会談では，二国間アジェンダにつき意見交換を行った。さらに，サイン・マロ・パナマ副大統領兼外務大臣との会談を行い，二国間関係につき，話し合いを行った。

●２６日，ロイサガ外相は，シコティ・アンゴラ外相及びアブダッラー・アラブ首長国連邦外相とそれぞれ会談を行った。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●１５日，ミシェル・ジャロー世界気象機関事務局長（世界気象機関関係会合出席等）

●１６日，イヴァン・ラマーリョ・メルコスール上級代表（ロイサガ外相との会談）

**（２）往訪**

●７日～２０日，レイテ商工相，中国訪問（IDB中国-ラ米投資会議出席）

●１７日～１９日，バイアルディ女性相，米国訪問（IDB関係者との会合出席）

●１９日～２８日，ガッティーニ農牧相，米国訪問（カンザス大学等視察）

●２０日～２８日，ロイサガ外相，米国訪問（第６９回国連総会出席等）

●２２日～２６日，アベド司法相，ドミニカ共和国訪問（刑務専門家国際会合出席）

●２８日～１０月１日，バリオス厚生相，米国訪問（WHO地域会合出席）(了)